

学校名： 埼玉県立狭山緑陽高等学校 授業者： 半山 修平  
 教材作成者： 半山 修平

授業日時	平成 25 年 10 月 2 日～28 日	教科・科目	ビジュアルデザイン
学年・年次	3 学年・ I II 部	生徒数	男 7 人、女 14 人、計 21 人
実施内容	孔版について学ぼう	本時／この内容を扱う全時数	7 時間
教科書及び教科書会社	なし		

授業のねらい（本時の授業を通じて生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか）

版画作品についての理解や見方を深め、表現形式の特性を生かした版画表現の可能性を追求する態度を育て、版画表現の特性について理解を深め、表現と鑑賞の能力を高める。  
 孔版（ステンシル・シルクスクリーン）による学習を通して、版画の特徴や技法を理解し、多様な製版の方法の特質や材料の活用を学ぶ。また、鮮明な発色を生かすとともに、版による表現の可能性を追求する。

メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題）

孔版を使った参考作品にできるだけ近い作品を制作する。



生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。）

前年の美術 I でステンシルの作品をつくったが、版を何回も繰り返し色を変えて刷ることや、グラデーション・ローラーの技法を使うことは難しいと考える。  
 各エキスパートを理解してジグソー活動をすることで参考作品に近い作品を制作できると予想する。

期待する解答の要素（本時の最後に生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）

孔版（ステンシル・シルクスクリーン）の技法や特徴、その制作方法が理解できている。  
 版画の製版の方法の特質や材料の活用を学んでいるか。  
 絵の具の発色を生かし、グラデーションを表現できているか。

各エキスパート＜対象の生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞

孔版（ステンシル・シルクスクリーン）の技法や制作方法を理解する。  
 グラデーション（ぼかし）の技法を理解する。

ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

孔版（シルクスクリーン）を使ってのデザイン制作（Tシャツ・バンドナのデザイン）

## 本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	前年の美術 I の授業でステンシルによる作品制作を行った。	ステンシルの技法の理解。
前時	課題になる参考作品をみせる。	次回の授業の見通しをつくる。
本時	メインの課題。 孔版を使った参考作品にできるだけ近い作品を制作する。 エキスパート活動。	各エキスパートの理解。 ジグソー活動。
次時	エキスパート・ジグソー活動による制作の続き。	課題作品の完成。
この後	孔版（シルクスクリーン）を使ってのデザイン制作。	ステンシルを使っての課題作品の制作から、シルクスクリーンのデザインの制作に移る。

## 上記の一連の学習で目指すゴール

版画作品についての理解や見方を深め、表現形式の特性を生かした版画表現の可能性を追求する態度を育て、版画表現の特性について理解を深め、表現と鑑賞の能力を高める。

## 本時の学習活動のデザイン

時間 (分)	学習活動	支援等
5	○挨拶、前回の概要説明。 ・本時の学習内容について。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時でみせた、参考作品をもう一度鑑賞させ、どのような技法で描かれているかウォームアップで話し合う。</li> <li>・各エキスパートに分かれ 3 つの分野の資料を読み解き、各エキスパートで問題を考察するよう支援する。</li> <li>・意見交換が円滑に行われていないグループを支援する。</li> <li>・制作に取り掛かれそうなグループは制作にかかる。</li> <li>・次回も続きをすることを伝える。</li> </ul>
10	○エキスパート活動。 ・3分野のそれぞれの資料を読み、考察する。	
25	○ジグソー活動。 ・3分野の情報から、意見交換。 A 孔版（ステンシル）の技法 B 孔版（シルクスクリーン）の特徴 C グラデーション（ぼかし）の技法 ・課題について考え、話し合う。 ○作品の制作。	
5	○片付け。 ・次回の授業の説明。	

## グループの人数や組み方

3年・I II部・ビジュアルデザイン選択者（男7人、女14人、計21人）  
全体的に美術に対する興味関心はあるが、授業中において集中力が持続しにくい。一方、積極的に授業に参加する生徒もおり、意欲的に作品制作に取り組む生徒もいる。  
その中で、3～5人のグループをつくり取り組んだ。